

令和3年度 第1回山北町総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和3年11月24日(水)

開会：10時30分 閉会：11時30分

2 開催場所 山北町役場 防災対策室

3 出席者(敬称略)

(1) 委員 6名

山北町長 湯川 裕司

山北町教育委員会教育長 石田 浩二

山北町教育委員会教育長職務代理者 野地 泰次

山北町教育委員会委員 小菅 正子

山北町教育委員会委員 今村 敏雄

山北町教育委員会委員 佐藤 直美

(2) 事務局 2名

参事兼企画政策課長 瀬戸 靖

企画政策課主任主事 井上 知洋

(3) オブザーバー 2名

学校教育課長 高橋 英治

生涯学習課長 松田 浩義

4 傍聴者 0名

5 会議概要

1 開会 参事兼企画政策課長

2 町長あいさつ 湯川町長

3 教育長あいさつ 石田教育長

4 議題

(1) 教育・保育の一元化に係る教育環境の充実について

湯川町長

それでは、議題（1）教育・保育の一元化に係る教育環境の充実について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

次年度に予定している機構改革の概要について説明

湯川町長

続いて、石田教育長より説明をお願いしたい。

石田教育長

国でもこども庁の創設に合わせ教育・保育の一元化が検討されている。当町においては全ての教育施設が町立という強みを活かし、先だって教育・保育の一元化を進めるものである。ただ組織を変えるだけでなく、町の特色を生かし、町に愛着を持ってもらえるような教育を目指していきたい。具体的には、英語教育、ICT、郷土への愛着などについて検討していきたい。

湯川町長

カリキュラムの改定はどのように行う予定か。

石田教育長

すでに0歳から5歳までのカリキュラムはできている。小学校のカリキュラムについては今までに積み上げてきたものがあるのでゼロからスタートという訳ではないが、就学前のカリキュラムとどのように結び付けていくかを考えながら策定を行うことになる。また、中学校のカリキュラムについても同様である。一度にではなく、少しずつ進めていきたい。

野地委員

教育と保育の管轄の違いから、今までもどちらの面で相談をしたらよいだろうかと考える場面があった。教育委員会の事務としては膨らんでしまうので大変だと思うが、0歳から15歳までという長い期間で子どもを育てていくという考えを打ち出していくこと自体が素晴らしい考えではないかと思う。

佐藤委員

郷土愛を育むという点において、三保小学校があったころは丹沢湖マラソン大会など、ボランティアとして子どもたちの力を必要とした行事があった。ボランティア活動に関して児童・生徒の自主性だけに任せるのではなく、参加しやすいような体制づくりや参加を促すような取組みを増やした方が良い。

石田教育長

おっしゃるとおり、子どもたちは三保、清水、共和といった住んでいる場所以外の地域の歴史や文化も学んでいかなければならない。郷土愛育成のテーマとして、就学前では「山北にふれる」、小学校では「山北を知る・山北を学ぶ」、中学校では「山北に学ぶ・山北に広げる」を掲げており、例でいうと、共和地

区で子どもたちが森林を体験して学ぶ森林環境教育を行っている。

今村委員

保護者としては、相談するところが1つというのはありがたい。山北の木を使って私自身が行っているチェーンソーアートについては、共和地区と連携するなどして、是非子どもたちに見てもらいたいと思う。

小菅委員

私自身も子育ての際、学校などの取り組みに参加する中で管轄が違うので連携ができないという場面に遭遇したことがあり、それが解消されるというのは良い方向へ進んでいると思う。

郷土学習についても、山北町には様々な歴史・文化があるので、子どもたちが体験して学べる環境が望ましい。

(2) 教育に関する諸課題について

湯川町長

次に、議題(2)教育に関する諸課題について、委員からご発言をお願いしたい。

野地委員

川村小学校付近の老木の処理について、町が迅速に対応していただいたことに感謝したい。以前ブロック塀が倒壊し亡くなった児童のニュースがあったが、起きてしまった後に後悔しても遅い。子どもの安全を第一に考えなければならない。

石田教育長

教育施設の老朽化が進んでいる。山北中学校のプールは平成25年から使用を中止しており、今回ようやく取り壊すことが出来る。他にも、川村小学校の校舎の老朽化が顕著で課題となっている。毎年のように予算をつけて修繕を行っているが、雨漏りを繰り返すなど根本的な解決に至っていない。施設の長寿命化を見据え、長期的な視点で施設管理を考えていかなければならないと思っている。

湯川町長

最近では松田町が木造校舎を新たに建てるなど施設整備を行っている。少なくとも老朽化している部分については長期的な視点を持った修繕を検討しなければならない。子どもたちにとって良い環境の中で学べるようにしていきたい。

石田教育長

県立山北高等学校との連携について、文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」は令和3年度で終了するが、研究活動は続けて

いく意向と聞いている。12月には山北高校による報告会が開催予定である。0歳から15歳までの教育保育の一元化と併せて、今後は高校卒業までの教育の連携ということ視野に入れていきたいと思っている。

湯川町長

先日、茨城県堺町に視察に伺った際に印象的だったのは、スポーツ施設が充実していたこと。施設がなければできないスポーツもあり、スケートボードやBMXなど、施設があれば興味を持つ子どもたちが増えるのではないかと考えているので、施設の整備について研究していきたい。

佐藤委員

現在町では町民と話す場として座談会を開催していると思うが、教育に当たっては保護者の考え方を尊重することが重要だと思うので、保護者を対象として意見を聞く場を設けると良いのではないかと。

湯川町長

そういった場があるとよいと思うが、一人一人の意見を聞いていく形式では議論に混乱が生じることもあると思うので、開催方法を工夫する必要がある。

石田教育長

一元化に伴って幼稚園、保育園、こども園の3園によるコミュニティスクールを令和4年度から開催する。これは今までにはなかった取り組みで、教育委員会と保護者が直接意見交換を行う場ができる。子育て世帯の意見をしっかりと反映していきたい。

5 その他

事務局

次回の会議日程について、2月の中下旬を予定している。具体的には改めて調整し、ご連絡させていただく。

6 閉 会 参事兼企画政策課長

以 上